



排泄問題 ワークショップ 2011

～排泄にまつわる実態把握と課題解決に向けて～

障害者が自立した生活を送る上で、排泄にまつわる様々な課題が存在することはあまり知られていません。そのため、企業や大学で行われている福祉機器の開発にも、排泄に関するニーズは反映されにくい状況が続いています。

そこで国立障害者リハビリテーションセンター研究所では、排泄を支援する技術開発を促進するために、「排泄問題ワークショップ」を企画・開催しました。キーワードは、障害者と技術者の直接対話です。障害当事者と研究開発者が同じテーブルでニーズとシーズ(技術の種)を伝え合いながら議論し、技術の将来像を描くことを目指しました。

障害当事者 (ニーズ)

排泄にまつわる様々な課題を抱えている

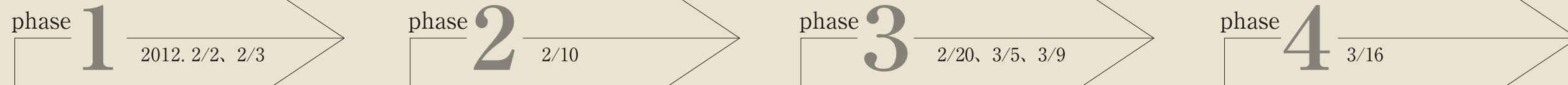


企業・大学 (シーズ)

技術の種を持っている

ワークショップの流れ

効果的な議論を促すために、ワークショップは4つのphaseで構成されています。技術の現状などを把握する調査phaseとブレインストーミングを中心とした議論phaseを交互に実施することで、参加者全員が情報を共有しながら議論を進めました。



phase 1 排泄に関する現況調査

- ・排泄に関する様々な技術開発や支援機器の情報
- 国リハ研究者より障害者の排泄手法や支援機器の概況をヒアリング



- 尿取りパッド内のセンサー開発の経緯について詳細に説明を受け質疑応答



- 尿取りパッドの構造や自動吸引のしくみについてデモンストレーション



phase 2 ニーズの抽出

- ・障害当事者によるワークショップ
- ・排泄の様子や失敗談
- ・排泄に関するニーズ
- 各人の排泄方法や生活の状況について実際の写真などをを用いながら情報を共有



- 排泄物についての失敗談や各々が工夫している排泄方法について熱く議論



- 悩み、希望、考えたことや話し合ったことを紙に書き出し、思考と目標を整理する作業を行った



最重量ニーズ
失禁時の漏れやにおいを完全にガード

phase 3 開発者へのヒアリング

- ・障害当事者のニーズを踏まえて問題解決に大きく貢献してくれそうな企業にヒアリング
- 排泄物自動処理装置
尿のみならず 全ての排泄物も自動処理できる装置の誕生秘話 についての説明を受け質疑応答



- 光触媒空気清浄機
光触媒の機能により、においを吸収し分解する装置についての説明を受け質疑応答
←現在工場や福祉施設などで多く利用されている



- おむつ
多くのニーズを組み入れながら日々研究を行っているおむつ開発者と討議



phase 4 技術の未来像を議論

- ・障害当事者と研究開発者による活発な議論
- ・技術を体験しながら相互理解を深める
- ・機器開発に向けてのアイデア出し
- Phase1~3までの情報を一つのテーブルで共有し、phase 4の目的を再確認してスタート!!



- 研究開発者の持参した機器を実際に手に取り、自分達の目指す排泄機器についてのアイデアを膨らませます



尿吸引後のサラサラ感を実感

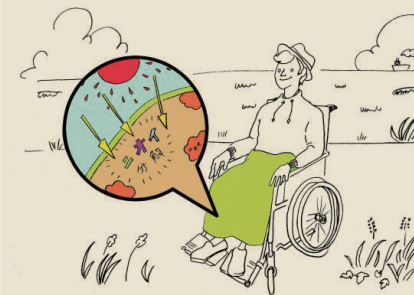


光触媒でコーヒーのにおいが消えた

携帯トイレに水を入れて実験



機器の未来像



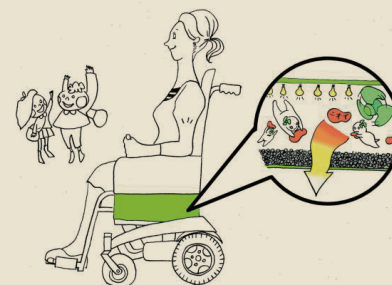
におい封じ込めエプロン

- ・においを閉じ込め外部に漏らさないエプロン
- ・いずれ光触媒機能を練り込んでにおいの分解なども試みたい



型取りおむつ

- ・ひとりひとりの体型や体格に対応でき、排泄物やにおいを決して外部に漏らすことのないおむつ



におい分解クッション

- ・光触媒・吸引ファン・UVランプを組み合わせてにおいを吸収し分解するクッション



排泄技術最前線



排泄物自動吸引装置の尿取りパッドには尿自動感知センサーがついている



おむつの中には吸水ポリマーが入っている。ガラス容器に入れてその吸収力を確認



おむつやパッドの内面は、撥水部と親水部が目的に応じて組み合わされている



光触媒空気清浄機の内部。光触媒フィルター、UVランプ、吸引ファンで構成されている

研究開発の成果がなかなか実用化に結びつかない状況を「死の谷 (valley of death)」という言葉で表現することがあります。福祉機器の分野でも、この死の谷の存在が様々な形で指摘されてきました。死の谷の大きな原因の一つに、福祉機器のユーザである障害者のニーズを、研究・開発者が十分に把握しきれていないことが挙げられます。同じ障害があっても、個人の価値観や生活スタイルに応じて、機器へのニーズは大きく変化します。この多様なニーズを、福祉機器の開発への確に反映していくための良い方法はないだろうか、という問題意識のもとに企画されたのが、今回の「排泄問題ワークショップ」です。

2012年の2月から3月にかけて、5件のヒアリングと2回のワークショップが実施され、参加者の思いが機器の未来像として具体化されました。障害者の排泄問題は残念ながら「知る人ぞ知る」課題です。今回ご参加頂いた企業の研究開発者の方々からも、「そんな問題があったのか」という驚きの声がありました。一方で、障害者の皆様からは、「こんな技術があったんだ」という声も。お互いの現況を理解しあうことで生まれた機器の未来像は、今後死の谷を越えて行けるでしょうか？

最後に、忙しい業務の傍らヒアリングやワークショップに快くご協力下さった研究・開発者の皆様、そして排泄というデリケートな問題についてオープンな発言を厭わなかった障害者の皆様に、深く感謝の意を表します。

 硯川氏 障害当事者	 小島氏 障害当事者
 小林氏 障害当事者	 小宮山氏 障害当事者
 菊池氏 障害当事者	 田中氏 排泄物自動吸引装置 研究開発者
 中山氏 国リハ研研究者	 北林氏 排泄物自動処理装置 研究開発者
 亀岡氏 携帯トイレ開発者	 佐々木氏 光触媒空気清浄機 研究開発者
 安藤氏 光触媒空気清浄機 研究開発者	 村田氏 おむつ 研究開発者
 山本氏 光触媒空気清浄機 研究開発者	

お問い合わせ：国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部

〒359-8555 埼玉県所沢市並木4-1
E-mail: suzurikawa-jun@rehab.go.jp

TEL: 04-2995-3100 (直通内線: 7287) / FAX: 04-2995-3132
URL: http://www.rehab.go.jp/ri/kaihatsu/haisetsu_ws/index.html

本ワークショップは、右記の研究費によって運営されています。

国立障害者リハビリテーションセンター研究所 H23年度 間接経費を活用した研究
研究課題: 「先端技術の福祉応用を促進するための社会技術的枠組みの創成」 研究代表者: 硯川 潤